

[11]九州文化史研究所紀要表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7178522>

出版情報：九州文化史研究所紀要. 11, 1966-03-31. Kyushu Bunkashi Kenkyusho, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



刊行のことば

九州は日本の最西端に位置し、北は対馬海峡を隔て、朝鮮半島に接し、西は東シナ海を介して中国大陆に隣接するという自然環境によつて、古来それらの地域から先進文化の洗礼をうけ、更にこれを国内の政治権力の中心地に伝播することによつて日本文化の形成の上に極めて重要な役割を演じてきた。従つて九州には先進文化と在来文化の接触によつて文化受容のさまざまな態様を呈している。この事は他の地域に見られぬ特殊な現象であり、文化科学の研究に貴重な素材を提供していると共に日本文化の研究には重要なフィールドとなつてゐる。

この点にかんがみ、わが九州大学においては既に二十数年前より九州文化史研究所を設け、人文社会の各分野の研究者によつてさまざまな研究を行なつてきたが、その成果は九州文化史研究所紀要その他において発表され、学界にも寄与する所少なくはなかつたと信じてゐる。この実績が認められ、昭和四十年より文学部の附属の研究施設として正式に発足することになつたのを機会に、更に右の目的を有効に達成するため、従来に増して緊密な連繫の下に多角的に総合的研究を行なうこととなり、先ず施設開設の記念として本紀要の刊行を見るに至つたのである。いまだ十分に右の趣旨が実現されたとはいえないにしても、その将来の方向の一端が示されていると思う。われわれは九州文化の総合的研究を世界史的観点の上に立つておこない、日本文化の特質を明らかにすることを意図し、以て本研究施設開設に対する世人の期待の一端に応えようとするものである。ここに本施設の目的を開陳し、一層の支援を冀望する次第である。

昭和四十一年一月

九州文化史研究施設長

箭内健次